

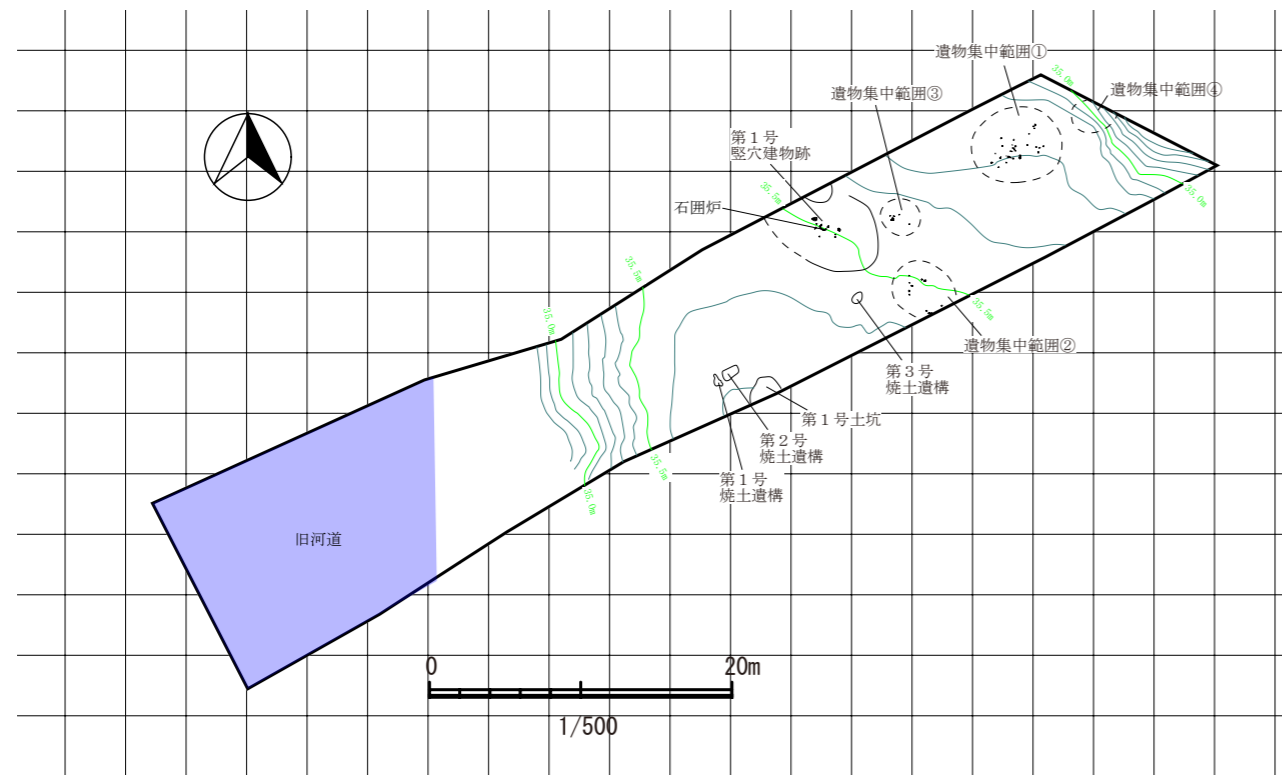
ふるかまやだいら 古釜谷平 (2) 遺跡

当日配布資料

1回目: 11:00 ~ 11:30 2回目: 13:30 ~ 14:00

青森県埋蔵文化財調査センターでは、下北北部地区中山間地域総合整備事業の実施に先立ち、風間浦村大字蛇浦地区に所在する、古釜谷平(2)遺跡で5月14日から発掘調査をしています。

古釜谷平(2)遺跡は、風間浦村役場庁舎から北西へ約6km、標高約35mの海岸段丘上に位置し、北に津軽海峡を望みます。調査区周辺は平場と沢があり、縄文時代の遺構や遺物がおもに平場から出土しています。



古釜谷平(2)遺跡 遺構配置図



古釜谷平(2)遺跡の調査のようす

メモ

青森県埋蔵文化財調査センター
 〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15
 TEL 017-788-5701
<https://www.ao-maibun.jp>



ホームページ



インスタグラム



国土地理院発行の電子地図 25000 を加工して作成

古釜谷平(2)遺跡と風間浦村の遺跡

■周辺の遺跡

風間浦村内では、現在までに24遺跡が確認されており、そのうち20遺跡が縄文時代の遺跡です。約1万5千年前から1年以上続いた縄文時代の遺跡の宝庫である青森県ですが、風間浦村にも当時の人々の生活の痕跡が多く残っています。

これまでに青森県埋蔵文化財調査センターが村内で発掘調査を行った遺跡は、古野(2)遺跡、古野(3)遺跡、潜石(2)遺跡、沢ノ黒遺跡で、いずれも縄文時代の遺構や遺物が発見されています。とくに古野(2)遺跡からは、縄文時代中期後葉の榎林式期(約4,200年前)の土偶が見つっています。この土偶は、下北地域における数少ない榎林式期の土偶4例のうちの1点であり、大変貴重で重要な資料といえます。



古野(2)遺跡遠景



土偶

■古釜谷平(2)遺跡で見つかった遺構

今回の調査では、これまでに、縄文時代の竪穴建物跡にともなう可能性がある石囲炉1基、土坑1基、焼土遺構3基が見つっています。

石囲炉

竪穴建物跡にともなう可能性がある施設です。細長い川原石を60×40cmの長方形に並べて囲い、その中で火を焚いた痕跡で、今から約4,000年前の縄文時代後期のものと考えられます。石囲炉の周囲は土が硬くしまり、汚れていることから、当時の人々が炉の周りで頻りに活動していたようすがうかがえます。



石囲炉とその周辺

土坑

地面に掘られた穴です。貯蔵施設や落とし穴、墓と考えられるものもありますが、当遺跡で確認された土坑の用途は不明です。



土坑の土層断面のようす

■古釜谷平(2)遺跡で見つかった遺物

おもに縄文時代後期の遺物が見つっています。土器と石器があり、土器は破片が多く、石器には石鏃、石匙、石錐、石筥、磨製石斧などがあります。

石鏃



矢の先に装着されたと考えられる矢じりです。珪質頁岩という石を打ち欠いてつくられており、写真のように矢柄に接着するためのアスファルトなどが付着しているものもあります。

石匙



つまみが作り出された石器です。ものを切ったり削ったりすることに使われます。

石筥



三味線のバチのような形をしており、動物の皮なめしなどに使用されたものと考えられます。

磨製石斧

これまでに3点見つかり、それぞれ材料となる石が異なります。とくに長さが約5cmの小さな蛇紋岩製のものは、石材が青森県では採れず、産地が岩手県や北陸地方にあることから、当時の交流のようすがうかがうことのできる貴重な資料です。



磨製石斧の出土状況

半円状扁平打製石器



半円状に成形し、直線部分で磨ったり、たたいたりして使用された石器です。縄文時代前期から中期にかけてみられる石器であるため、近くに所在する縄文時代中期の古釜谷平(1)遺跡や古野(2)遺跡などとの関係も考えられます。